

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2023年12月15日

第28号

すくらんぶる

活動情報

12/17 高校生青年交流会
実行委員会

12/25 劇場代表者会

1/12・13 舞台コーディネイト
「ともだちげきじょう」

1/19 高学年部会

1/23 乳幼児部会

1/24 低学年部会

1/31 「ぷっかりぽっかり」
試演会1/30～2/14
舞台コーディネイト
「ふくろうぼうや月夜のぼうけん」

2/27 祭典事務局会議

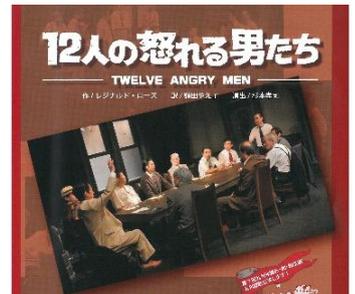
2/29 理事会

民主主義って、なんだ?!

～九州沖縄わ・和・輪企画「12人の怒れる男たち」の取り組みより～

「もう一度観たい作品」として青年たちから熱い要望が上がっていた、東京芸術座の「12人の怒れる男たち」が九州沖縄「わ・和・輪企画」として取り組まれた。1957年アメリカ映画でヒットした作品の舞台化。貧民街で起きた少年による(とされる)父親殺傷事件の陪審員裁判。有罪か無罪か、12人の陪審員全員一致でしか評決できない。論議を尽くして全員一致を目指す姿は、「民主主義とは何か」を問いかける。

事前の取り組みとして、鹿児島県の青年実行委員会による九州合同共通体験が、実際に現地に赴き水俣病について学ぶことを通して「民主主義について深めよう!」と企画された。長崎県も、ながさき子ども劇場から青年2名・高校生5名・大人6名が参加した。前日からの参加者は、高校生・青年組と大人組に分かれて宿泊交流もあり、他県の様子を聞いたり、いろいろな話をし、大いに刺激を受けあった。全体の企画としては、民設と公設それぞれの資料館見学の後、被害者の先頭に立って闘った父親を持つ、水俣病患者家族で語り部の川本愛一郎さんのお話を聴



き、グループトークを行った。同じものを見て、同じ話を聴き、同じ事実を知るのに、なぜ異なる意見が出るのか。現在も苦しんでいる人がいる水俣病の問題。当時の状況や現在まで続く水俣病をめぐる闘争について知り、深めることでこの問題の中にある民主主義とは何かをみつめて、自分ならどうするか、民主的な社会とは何かを考え合う機会となった。



本公演鑑賞は、ながさき子ども劇場は高学年例会として、他の県内子ども劇場は乗りいれの形で佐賀公演に参加した。ながさきは、初の県外移動例会。貸切バスを立て、みんなで行ったこともとても有意義だったとのこと。行きのバスでは、高校2年のFくんによる陪審員制(アメリカ)と裁判員制(日本)についてのレクチャーのほか、水俣学習参加者からの感想や報告もあった。そうして作品への期待は高まり、佐賀文化会館へ到着。舞台にほぼ出ずっぱりの12人の迫真の演技、観客は100分間のリアルタイムで事件の審議を体験するという演出に引き込まれた。終演後のアフタートークでは、「もしあなたが13人目の陪審員だとしたら?」と問いかけられ、自分に引き寄せて考える参加者たちの姿があった。鑑賞後の感想も多く寄せられ反響の大きい作品だった。

全8日9公演を終えた翌日、劇団員全員と、九州各地から取り組んだ子ども劇場、総勢94名が集まって「まとめの会」が開かれた。どの地域からも想いのあるホットな報告があり、劇団員も一人一人が感激を語ってくれた。「まず初日の客席の“濃さ”に驚いたが、それが最終公演までずっと続いた。“消えもの”である芝居が、確かなものを残したと実感している。」



「劇も、12人の名前も知らない者同士が見も知らぬ一人の少年について考え合う。一人のことをみんなで想うこと。」「迎えてくれる各地の熱い思いに突き動かされる体験だった。不完全な者たちが力を合わせていくこと。」など。

想いを伝え、話し合い、力を合わせる。一人の意見を大事にする…。演劇を通して、この取り組みを通して「民主主義って何だ?!」という大きなテーマに向き合い、体現するような経験だった。そして、そこに若者たちの力があつた。共に取り組み、交流し、こうして繋がっていくという喜びが実感をもって確かに残る取り組みとなった。

諫早子ども劇場主催 9月例会「とんからり」事前座談会

中島研さん(劇団風の子) 2023年9月9日(土)13:30~15:30

諫早文化会館・練習室

東京都八王子周辺に伝わるわらべうたや伝承あそびを題材にした舞台「とんからり」(劇団風の子)の脚本・演出を手掛けた中島研さんとの座談会が諫早文化会館で開かれました。諫早子ども劇場では、子どもにとって演劇(例会)を観続ける意味や子ども時代をその子らしく生きていくことについて(集団で群れてあそび合うことの大切さ、あそびを通して獲得していくもの)など語り合う時間にしたいと企画し、小学5年生から大人まで20名の参加がありました。

初めはお手玉を使ったワークショップ。ひとりでのお手玉あそびから始まり、隣りの人や対面の人にお手玉を投げたり、交換したりみんなで輪になってワイワイ言いながらあそび合いました。自分の手元のことより相手が取りやすいところへ投げる。失敗しても成功しても笑い合う。研さんは「お手玉をするといろんな人がいるのがわかる。」と言います。子どもはあそびの中で「いろんな人がいること」「勝つこともあるけれど負けることもあること」「想像力を養うこと」を学んでいく。集団で群れてあそぶことで「自分で見て、考えて、行動していき自立していく」「これは子ども時代に体験しておかないといけないこと。子ども同士であそぶ時間や場所が無いという意見もあるが、その大人の諦めが怖い」と言われました。「今の時代は大人が子どもから問われている。子どものイメージ力を大人は謙虚に知らなければならない。常識を打ち破っていきたいと子どもたちは潜在的に分かっているがどうしていいのかが分からない。子どもの意見を無理と決めつけるのではなく、そうするにはどうしたらいいか一回みんなで話してみたらいい。子どもは大人を見抜く力を持っている、あそぶふりをしてあそんでいると子どもは楽しめない。子どもと向かい合って本気であそぶ、これは児童演劇でも大切なこと。」この言葉から子どもと対等な人間関係を築き、子どもの人権を大切にしている研さんの子どもたちとの接し方が伝わってきました。

また、子どもにとって演劇を観続ける意味とは何かの問いに「演劇の観たり聞いたり、間接的な体験だが直接的な体験と混ざっていい。演劇を観て一人の大人がいろんなことが出来るんだ、いろんな人がいるんだなと子どもに思ってもらおう。大人になるっていいことだということを伝えたい。」「生きていく素が蓄積することもあるし、自分が行き詰まったときに踏み出す一歩になるかも」ある中学生から「例会(演劇)を観ることは自分を創る場だった」と言われたことがあるそうです。

「芝居は目に見えにくいものを見ることができる。それに出会ってお互いに生き合っている。観客は笑ったり怒ったり自分を表現するために観に来ている。」また「中学生たちと劇を創るときに自分たちで創り出したという実感をつくりだすことが大切。同じことをやっても自分たちで創ったものと大人が創ってやらされたものは違う。」「みんなでお芝居を創るときはぶつかることもあるし嫌な思いをすることもありますが、それは生きていく中で大切なこと」「人はみんな違うんだということをステキなことだと思えるかが大切」演劇を観る、創ることで自分が生きていく中で出会うさまざまなことに心を動かすことがより深くなる気がしました。

最後に、「生きていけばいろんなことがある」「明るく落ち込む」「元気に落ち込む」「不安は大切なエネルギー源」と、自分が立ち止まった時に前を向ける、心が温かく元気になれる言葉をいただきました。

*参加者感想

子どもを大人と同じ一人の人格を持った対等な存在として尊重し関わろうと心がけているが、頭で思っているが、実際に相手がそのように受け取ってもらえるように身体がそう表現できているかというのはまた別。「とんにあそび合う」ということはとても深いと感じる。子どもの時間の中にもっと演劇やあそびが保障されるといいなあと思う。(ながさき・Nさん)



子どもたちの 「言いたい！決めたい！やってみたい！」



2023. 3. 24たらみ図書館海のホールの講演「分かち合う文化の力で子どもにやさしいまちづくりを！」（祭典事業主催）の中で、アフタフ・バーバンの北島尚志さんは、子どもの権利条約31条をどう保障していくのか、地域の中でどう体现していくのかについて語られました。「どんな小さな集まりでも子どもたちの「言いたい！決めたい！やってみたい！」をつらぬいてほしい。そのことが31条そのもの、子どもの時間を守ることだから」と。

このコーナーでは、そのような視点から各地の子どもの姿を紹介したいと思います。

今回は、県祭典/とことこ実行委員会(島原)の木下美和子さんです。



“舞台を観るのが好き”というのがきっかけで13年前に知り合った島原在住の友人たち。私の自宅に集まって子育ての悩みや、地域のこと、劇を観る楽しさなど時間を忘れて話しこみ「今日も遅くなった～」と慌てて帰っています。その傍で夢中になって遊んでいた幼い頃の子どものことを今では懐かしく思い出します。度々話をしていく中で“島原で子どもたちに劇を観せたい”との思いが一致し「とことこ劇を観る会」をつくり、長崎県子ども舞台芸術祭典に参加することになりました。親子で毎年劇を観ることを楽しみに実行委員会を継続していましたが、コロナ禍で集まることもできず数年は祭典の参加を見送っていました。しかし、もうこれ以上待てないと今年4年ぶりに取り組みを再開することにしました。この間、9人の子どもたちは年中～中学1年になっていたのも、今までは大人が年齢にあった役割りを決めて手伝ってもらっていたのを、お手伝いではなく一緒に創り合いたいと伝え、自分がやりたい事、出来る事をやってみようとなりました。まずは子どもたちの話し合いから始めました。慣れないことに戸惑いながら、横道にそれたり、途中遊んだり時間はかかりましたが、なんとか自分たちの出来るやり方で当日までの流れを決めることができました。ここでの話し合いには、子どもがいない私だけが入り「大人は口を出さず見守る」ことを意識しました。が、傍で様子を見ていた親にとってそれが一番大変なことだったようです。公演まで各自準備をし、当日は創造団体との打ち合わせにも入り、搬入から搬出まで自分たちで考え決めたように動き、わからない時は聞きながら、1日フル活動で力を出し切りました。また、夕食を兼ねたまとめ会では「参加者の反応が気になった」と主催者の立場での感想が聞けるなど、子どもたちの成長をあらためて感じることができました。その頼もしい姿に私たち大人も元気になるエネルギーをたくさんもらいました。

来年も祭典と一緒に取り組みながら、子どもたちの成長を見守り自主性を大切に、「言いたい、決めたい、やってみたい」ができる環境を、まわりの大人たちと共にもっと広げていけたらと思っています。

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名（団体名）	月日（曜）	開演時間	会場	主催
マイ・クロ・シアター（OHオフィス）	2023年 12月19日(火)	19:00	諫早文化会館中ホール (諫早市)	諫早子ども劇場
かえるのそらとぶけんきゅうじょ (劇団うりんこ)	2024年 2月24日(土)	16:00	佐世保市民文化ホール (佐世保市)	佐世保子ども劇場
	2月25日(日)	18:30	諫早文化会館中ホール (諫早市)	諫早子ども劇場
	2月26日(月)	19:00	メルカつきまちホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
おいしいのぼうけん (人形劇団ひとみ座)	4月18日(木)	19:00	西諫早公民館講堂〈予定〉 (諫早市)	諫早子ども劇場
	4月19日(金)	18:30	アルカスSASEBO第2リハーサル室 (佐世保市)	佐世保子ども劇場
	4月20日(土)	① 15:30 ② 18:30	長崎県美術館ホール (長崎市)	ながさき子ども劇場
シモシュのピアノ旅行（X-jam）	5月12日(日)	18:30	たらみ図書館海のホール (諫早市)	諫早子ども劇場

**NPO法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 303 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO法人長崎県子ども劇場連絡会

★ご意見・ご感想をお寄せください。

★編集後記★

今年の子ども白書の中で、NPO 子どもとメディアは2023年1月、こども家庭庁に「重大な影響を受けかねない乳幼児期においては、デジタルデバイスへの接触から遠ざけて健全な心身の発達を守る仕組みを制度化すること」を求める提言をしている。最近メディアの研修を受けたが、目や言葉への影響に加え、脳への影響についても、未だ検証が追いついていないが大いに懸念されている。また、WHO(世界保健機関)も、2019年に子どもたちはもっとあそぶ必要があるという声明を出している。大人は子どもたちにあそぶ時間を保障しなくてはと思う。

伝承遊びを題材にした舞台劇「とんからり」は、年配者には懐かしく、子どもたちにとっても物売りの声や身体を使った動きが面白く、失敗を繰り返しながら何度も真剣に取り組む技に、息をのんで思わず応援の声が飛んでいた。生の舞台ってやっぱり楽しい！自分もやってみたい！あそびたい！と思えるものだった。子どもたちは大人をよく見ている。中島研さんも言われた「今、大人が問われている」が心に残った。(T)

2024年

◆ 舞台コーディネイトのお知らせ ◆



「ともだちげきじょう」(人形劇団ののはな)

1/12(金)	親愛児童クラブ(対馬市)	1/13(土)	あすか学童クラブ(対馬市)
---------	--------------	---------	---------------

**「ふくろうぼうや月夜のぼうけん」
(くわえ・ぱぺっとステージ)**



1/30(火)	中部地区青少年健全育成会(平戸市)	2/7(水)	ふくた保育園(諫早市)
31(水)	「ぷっかりぷっかり」試演会 文教おもやい保育園(長崎市)	8(木)	小野保育園(諫早市)
		9(金)	聖母の騎士東長崎幼稚園(長崎市)
2/1(木)	ありあけ幼稚園(島原市)	11(日)	佐世保子ども劇場
2(金)	有家たちばなこども園(島原市)	12(月祝)	「ふくろうぼうや月夜のぼうけん」 実行委員会(波佐見)
3(土)	桜花保育園(島原市)		
4(日)	諫早子ども劇場	13(火)	つばさ保育園(長崎市)
6(火)	北小クラブ(諫早市)	14(水)	稲佐保育園(長崎市)

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子ども文化芸術振興に寄与することを目的に2002年にNPO法人として活動を開始しました。長崎県内にある4つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしなが、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています。

**子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！
私たちは子どもの文化を応援します。**

<p>社会福祉法人 小野保育園 諫早市小野町 676-2 TEL0957-23-0120</p>	<p>ダイハツチバナ 有限会社 林田車体工業 〒854-0126 諫早市松里町 288 TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378</p>
<p>ますみクリニック 〒850-0952 長崎市戸町 2丁目20-57 OKホーム&ガーデン戸町店横 弁慶岩バス停前</p>	<p>古豊歯科医院 長崎市小峰町 3-16 ☎ 095-843-4165</p>
<p>ホテルウイング・ポート長崎</p>	<p>〒854-0072 諫早市永昌町43-6 医療法人 マツオ内科クリニック TEL 0957-25-2225 FAX 0957-25-2220</p>
<p>文明堂総本店 長崎市江戸町1番1号 TEL 0120-24-0002</p>	<p>長崎和泉屋 雲仙市愛野町乙 5864 ☎ 0120-54-1238 月曜～土曜 受付時間 9:00～16:30 FAX 0956-58-3637 <small>24時間受付(年中無休)</small></p>